

第 V 章

環境美化と近所とのコミュニケーション

苦情となっている臭気は規制値未満なのか、超えているのかによって、対応は違ってきます。規制値未満の場合は、人文・社会的な対応をとるのが良いでしょう。具体的には、日頃のあいさつや環境美化です。規制値を超えている場合は、自然科学的な対応を基本とし、管理技術や畜舎構造を見直します。同時に、人文・社会的な面も考慮すると良いでしょう。



悪臭苦情の発生と対策

(H19臭気対策セミナー資料より引用)

なお、アンケート調査結果については、第VI章（34頁以降）で述べます。本章では、調査事例の他に、アンケート結果の結果の一部、紹介します。

ア あいさつ

近隣住民への対応として、あいさつは欠かせません。いつも強い臭気が立ちこめるのではなく、1年のうちの数日間のある時間帯に臭気が漂う場合は、環境美化と近所つきあいで、苦情を回避出来る可能性が高いです。堆肥化、散布、出荷などの作業に関係する臭気であれば、作業の前に近所に、一言、声をかけましょう。また、風向きを考慮して作業時間を決めることも有効です。

事例 善意の臭気モニター

ある養豚場は良好な近所つきあいをしています。近所の方は、臭気の発生があると善意で教えてくれるそうで、苦情に発展する前に対処できるため、大変、助かっているとのことです。

日頃のおつきあいの中で

住民への生産物の配布、学校や町内会への寄付している養豚経営者もいます。なお、住民への生産物の個別配布ではなく、夏祭りなどの催しに生産物の一部を自治会へ寄付している農家もあります。

イ 畜舎周りの整頓・植栽

豚舎・牛舎周りの整理・整頓を日頃から心がけて下さい。また、畜舎脇への植栽（主に養豚）や花壇の設置も有効です。

①養 豚

アンケート調査で回答のあった品種と選定理由は下記の通りです。

1. いちい・・・・・・・・ふん尿に強い、早く大きくなる
2. においヒバ・ヒバ・・ふん尿に強い、早く大きくなる、風が吹くと香る、常緑樹
3. サング樹・・・・・・・・ふん尿に強い、早く大きくなる、丈夫、常緑樹
4. さざんか・・・・・・・・アンモニア吸着能高い、臭気対策、目隠し
5. 緑竹・・・・・・・・早く大きくなる、目隠しに利用
6. ホルト・・・・・・・・早く大きくなる、目隠しに利用
7. マサキ・・・・・・・・常緑樹、低木で生け垣に適す

下記は事例調査農家で撮影した写真ですが、農家アンケート調査の回答以外にベニカナメ、キンモクセイ、ツバキが見られました。



ベニカナメ



キンモクセイ



左：ヒバ 右：ツバキ（剪定は年1回）

②酪 農

花壇や畑の周囲に草花を植えることが多いです。アンケート調査で回答のあった草花の種類は以下の通りです。



牧場入り口の環境整備



牧場内の花壇

【草花の種類】

1. コスモス
2. ヒマワリ
3. パンジー
4. サルビア
5. マリーゴールド
6. サファニア
7. ベゴニア
8. ナデシコ
9. マーガレット
10. ビオラ
11. チューリップ
12. 日々草
13. 葉ボタン

ウ ハエ対策

ハエ対策は畜産経営者が注意すべき重要な問題です。ハエが発生し、近隣の住宅へ飛来したり、洗濯物についたりすると、視覚による情報が汚い物をイメージさせ、感情による臭気問題に発展しますので、特に、注意が必要です。また、出荷時などの豚の鳴き声が、聴覚から臭気をイメージさせることがあります。

ハエは生ふんに卵を産み付けますので、舎外に搬出したふんを迅速に移動し、堆肥化すべきです。ハエは堆肥に卵を産むことはありません。

なお、養豚では、畜舎のスノコ下の尿管の汚水でウジが生息していることが多いです。スノコ下は生ふんが常に貯留している場所ですので、特に、夏季はスクレーパーを稼働する回数を多くすることなどが有効と考えられます。

エ 公的機関への相談

畜産経営と住民との相互理解に、公的機関が果たす役割は大きいと考えられます。悪臭苦情が発生したら早急に解決することが重要です。経営者が直接、近隣住民から苦情が持ち込まれた場合、なるべく当事者同士間での解決は避け、是非、都道府県の所轄の公的機関（家畜保健衛生所、普及所など）に相談し、アドバイスを受けるのも一つの方法です。